

# 平成25年度 学校自己評価システムシート (清和学園高等学校)

目指す学校像	通信制・単位制の良さを生かしながら、自分の目的に合わせて生徒一人ひとりの夢や希望を叶える学校
--------	--

重点目標	1 基礎的・基本的な学力の定着とスクーリング規範の確立 2 社会人として必要な基本的な生活習慣の確立と心身の健康増進 3 単位修得率の向上と生徒の進路希望の実現に努める
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	3名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(2月14日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な学習歴を持った生徒が入学してくるが、その多くは、基礎的学力が身に付いておらず、その上スクーリングに教科書も持参せず参加する生徒、またスクーリングに出席できない生徒等も多くその改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「教科別スクーリング」の開設。</li> <li>スクーリング規範の見直し。</li> <li>ゼミナール形式の資格試験の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>火・木午後3時間基礎学力教科別スクールと題して学び直しを毎週実施する。</li> <li>スクーリング時に教科書・学習書・上履きの指導の3つを教師間で共通理解を深める。</li> <li>資格取得者の学校外での単位認定や表彰等を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科別スクールに積極的に参加を呼びかけているか。参加していない生徒の指導が十分に行えたか。</li> <li>共通理解が得られたか。</li> <li>受験者が増えて、資格取得者が増加したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科別スクールの評価を12月に実施し、その結果、不登校の生徒の出席率が高いことが把握できた。</li> <li>職員研修等で多方面から意見交換をして共通理解を図ることができた。</li> <li>受験者が、各種の検定試験で増えた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校生徒の教科別スクールへの参加は増えたが、まだまだ参加していない生徒への対応をどうするか今後の課題である。</li> <li>更に受験生を増やすため、学校新聞「SEIWA」等を活用して、生徒に呼びかけていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に社会人として必要な基本的な生活習慣が確立されていない生徒が多く、その基本的な生活習慣の確立を図る。</li> <li>心身の健康についての関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立と心身の健康増進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の全職員による「挨拶運動」の励行と遅刻を減らす指導を深める。</li> <li>健康への関心を深め、ボランティア活動を通して、美化精神や奉仕の精神を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>規則ある生活態度を培うことができたか。</li> <li>自ら心身の健康管理ができる態度を養うことができたか。</li> <li>教室のゴミや削減や、分別回収ができるように努めることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員・生徒指導部での「あいさつ運動」での声かけ指導の徹底。</li> <li>遅刻指導も昨年より引き続き指導したおかげで、成果ができてきている。</li> <li>ボランティアスクールで年18回深谷市にある「緑の王国」で様々な体験ができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつのできる生徒とできない生徒が別れてきているので、できない生徒への取組が今後の課題である。</li> <li>ボランティアスクール生徒会だけに頼るのではなく、生徒自らが率先して参加できる活動を目指す。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ多くのスクーリング時間数を確保する。</li> <li>多様な生徒の力を伸ばす適切な指導を行う。</li> <li>通信制高校では、就職ができていくのではなく、進路保障が可能な学校に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位修得率の向上を目指す。</li> <li>生徒の進路指導の実現。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクーリング以外にも参加できる基礎学力アップスクールや特別自主学習日を有効活用する。</li> <li>三者面談・適性検査・進路説明会などの行事を通して個々の生徒の実態を把握して、進路実現の向上に努める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた学習指導を推進することができたか。</li> <li>計画的な進路指導が行えたか。</li> <li>ハローワークとの連携や学校外での進路説明会に積極的に参加できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクーリング時間数を全体で14時間確保できた。</li> <li>厳しい経済状況の中で、就職希望者は、希望する職種に就職できなかった。</li> <li>大学・短大への進学希望者は昨年以上に進路が決定した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修指導時に将来を見据えた履修指導を行う。</li> <li>保護者会・三者面談を通して、通信制高校を理解していただく機会を提供する。</li> </ul>

学校関係者評価	
実施日	平成 26年 2月 24日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日登校することが難しい通信制高校では基礎学力の向上が一番難しい所であると思われるが、教科別スクールの取り組みは基礎学力の無い生徒には良い試みである。一人でも多くの生徒が参加できる仕組みの研究を継続していただきたい。</li> <li>ボランティアスクールの生徒の増加は評価できる。深谷市の「緑の王国」はかなり距離があると思うが、生徒が積極的に地域社会に貢献し、自信を身につけていくことは良いことだと思う。継続した取り組みを期待したい。</li> <li>厳しい経済情勢を受けて就職のできなかった生徒への対応を卒業後も続けていただきたい。</li> <li>進学実績については、更に指定校等の推薦枠の拡大を望む。</li> <li>今年から業者主催の進路説明会が実施され就職や進学に関心がより身近なものになったと思うが継続した取り組みをしていただきたい。</li> </ul>	